

《温故知新プロジェクト》

保育所看護職の学習プログラム開発に向けた基礎的研究（1）

及川 郁子^{*1} 川口 千鶴^{*2} 中山 静和^{*3} 鈴木 千琴^{*4}

The Study for Development of Nurse's Learning Program in Early Childhood Care and Education

Ikuko OIKAWA, Chizuru KAWAGUCHI, Shizuka NAKAYAMA, and Chikoto SUZUKI

1. はじめに

子どもたちの健全な発達、健康の維持・促進には、子どもたちを取り巻く適切で良好な環境が重要である。しかし、今日、子どもの成長に関わる成育環境はさまざまな課題が山積みされ、少子化対策のみならず将来を切り開く人材をいかに育むかは、重要な社会的課題であると指摘されている¹⁾。

近年、女性の社会進出に伴い保育所等を利用する子ども数は年々増加傾向にあり、子どもたちの健康問題や事故予防に対応すべく、種々のガイドラインが出され、健康支援の充実が期待されている。

しかしながら、保育所等に勤務する看護師、保健師、助産師などの看護職（以下、「看護職」という）の配置基準はなく、平成20年の保育所保育指針の改正に伴い看護師等の専門職員の確保推進が図られているものの、認可保育所において3割程度であり、配置形態や専門性の課題が指摘されている²⁾。特に子どもの健康教育や保護者への保健指導、疾病や障害のある子どもへの対応などについては自信が持てないという報告もあり³⁾、子どもや家族の健康支援者としての役割を十分に発揮するに至っていない。また、看護基礎教育、卒業後の継続教育では、保育所等の看護職に特化したカリキュラムはなく、一人職場であるために体系的な学びを行うことも難しい状況にある。

そこで、保育施設で働く看護職が、保育者と共に子どもの健康支援者となるために必要な能力を向上させるための学習プログラムを開発し、基礎教育終了後の教育システムのあり方について検討することを目的とし、その基礎資料を得るため、プロジェクト事業を開始した。

本報告書では、今年度実施した、学術集会におけるテ

マセッションの開催、文献検討、質問紙調査の3点について報告する。

2. 日本小児看護学会第27回学術集会テーマセッション 「保育園看護職と語ろう～子どもの健康支援のための 地域と医療機関の協力・連携を探る」の開催

1) 趣旨

医療の進歩により入院期間は短縮され、医療的ケアを必要とする子どもたちの在宅支援が促進されているが、受け皿となる地域生活には多くの困難を抱えている。2016（平成28）年「障害児の日常生活および社会生活を総合的に支援するための法律および児童福祉法の一部を改正する法律」において、医療的ケア児支援のための保健・医療、福祉、教育等の連携体制の構築の推進が求められ、保育所等における医療的ケア児の受け入れ支援モデル事業も開始された。医療的ケア児の保育園での受入をスムーズに行うには医療機関等の連携が不可欠であり、医療機関と保育所の交流を図ることを目的にセッションを開催した。

2) 内容：3ヶ所の保育園からの話題提供

①公立保育園：ベテランの看護師が常駐し、生後5ヶ月から就学前までの乳幼児を預かっている保育園である。喘息や食物アレルギーの子どもが多く、糖尿病やダウン症などのお子さんも預かっている。園児の健康管理、子育て支援などの幅広く活動を行っているが、慢性疾患児の支援には、親を含めた医療機関との連携のためのルール作りが不可欠であるという。

②私立保育園：常勤の看護職が配置されたのが初めての保育園である。保育士との連携に主眼を置き、特に健康面に配慮が必要な子どもについて、感染症対策や食物アレルギー児への対応などについての情報共有を積極的に実施している。慢性疾患のある子どもの場合は、園医も巻き込みながら医療機関、保護者との支援体制を作る努力をしている。

③医療的ケアの受け入れ実績のある公立保育園：看護師4名（常勤1名）が常駐し、2012年から医療的ケア児を受

^{*1} 短期大学部

^{*2} 順天堂大学医療看護学部（Juntendo University Faculty of Health Science and Nursing）

^{*3} 千葉県立保健医療大学（Chiba Prefectural University Health Science）

^{*4} チェリッシュ上野の森保育園（Cherish Ueno no Mori Nursing School）

け入れている。多いときは8名在園し、経管栄養、気管カニューレからの吸引、導尿、インスリン注入、血糖測定、ストマケア、酸素療法などさまざまな医療的ケアに対応している。保護者の付き添いは無く、同年齢の集団での生活を基本として、できるだけ多くの体験ができるよう工夫・配慮している。障がい・疾病別にさまざまな子どもに対応するための勉強会や研修体制が必要であること、集団生活の場であることの保護者の理解が不可欠であるという。

④当初は意見交換の時間を設けていたが、話題提供の時間が長引き意見交換はできなかった。

3) 参加者からのアンケート結果

参加者49名から回答を得た。看護師47名、保育士1名、その他1名であった。医療機関に勤務しているものが24名、保育園5名、児童養護施設3名、療育センター1名、その他は教育関係であった。自由記載の内容を分類すると、参加動機としては、【保育園看護職の活動への興味】【健康な子どもたちへの関心】【医療的ケアや障がいのある子どもの保育園での受け入れの現状や看護への関心】【地域連携、医療機関との連携を検討したい】というものであった。テーマセッション後の感想として【医療機関と保育園での看護の違い】【保育園看護職の課題】【医療的ケア児への支援への期待】などが記載されており、意見交換の時間がなかったことや、今後の継続の希望などが記載されていた。

3. 文献検討

1) 目的

看護職および保育士の卒業後の子どもの健康支援に向けた学習項目・学習方法と課題に関する動向を把握し、保育所看護職の学習支援に向けた示唆を得る。

2) 検索方法

国内文献に限定して医学中央雑誌 web 版 (Ver. 5) を用い、キーワード「保育所」「看護職」、分類を「看護文献」「原著論文」として国内文献を検索した。過去10年間では文献数が少なかったため、期間制限せずに実施した。保育士に関する検索では、キーワード「保育所」「保育士」「健康」「子ども」とし、分類は「原著論文」とした。それぞれ検索された文献のうち、研究目的に沿わない内容や、学習について記載されていない文献は除き、さらに検索過程で有用と思われる文献を加えた。

3) 分析方法

子どもの健康支援に向けた学習項目、内容、課題等について内容別に分類した。学習項目については、日本保育協

表1 保育所における保健活動16項目

1	子どもの発育発達の把握
2	嘱託医との連携
3	子どもの健康管理
4	生活習慣の健康教育
5	薬の管理や与薬前後の状態観察
6	感染症の早期発見・対応・関係機関との連携
7	けが・体調不良時の処置・対応
8	慢性疾患がある子どもへの対応
9	障害児への対応と関係機関との連携
10	気になる子への対応
11	被虐待児への対応
12	職員指導
13	保護者への保健指導
14	病児・病後児保育での健康観察
15	地域の子育て支援
16	災害時緊急時に備えた対応

会による保育所の環境整備に関する調査報告書の「保育所における保健活動16項目(表1)」⁴⁾を参考にした。

4) 結果

看護職の文献は114件検索されうち15件を、保育士の文献は37件検索され、有用な文献9件を加えて20件を分析対象とした(表2)。

(1) 掲載年代別の学習項目

(i) 看護職の文献について(図1)

看護職の文献は、2000年以前が1件、2000年～2007年が7件、2008年以降は15件であった。2008年以降は、2007年以前にはない慢性疾患がある子どもへの対応、感染症の早期発見・対応・関係機関との連携、けが・体調不良時の処置・対応、気になる子への対応の項目が新たに示されていた。

(ii) 保育士の文献について(図2)

保育士に関する文献では、2000年以前が0件、2000～2007年が5件、2008年以降は15件であった。2008年以降は、2007年以前にはない慢性疾患がある子どもへの対応、障害児への対応と関係機関との連携、災害時緊急時に備えた対応、感染症の早期発見・対応・関係機関との連携、保護者への保健指導の項目が新たに示されていた。

(2) 看護職および保育士の学習項目・学習方法と課題

(i) 看護職の学習項目・学習方法と課題

学習項目は、「保育所保健活動」が9件と最も多く、「慢性疾患がある子どもへの対応」4件では、食物アレルギーが2件、医療的ケアが必要な子どもに関する内容が2件であった。「感染症の早期発見・対応・関係機関との連携」・「障害児への対応と関係機関との連携」が2件、「けが・体調不良時の処置・対応」・「子どもの健康管理」・「気になる

保育所看護職の学習プログラム開発に向けた基礎的研究

表2 分析対象文献

番号	著者	タイトル	掲載年	掲載誌
1	須藤佐知子 他	保育所に勤務する看護師の感染対策における困難感	2016	小児保健研究, 75巻6号, p. 818-827
2	阿久津智恵子 他	食物アレルギー起因のアナフィラキシー対応に対する保育所看護職者が認識する困難感	2016	日本小児看護学会誌, 25巻3号, p. 1-8
3	山本弘江 他	保育所における保育所看護師等の保健活動に対する自信とその影響について	2016	小児保健研究, 75巻1号, p. 63-68
4	八田早恵子 他	保育保健を支える看護職の実態	2015	名桜大学紀要, 20号, p. 65-70
5	市川理恵子 他	保育所で働く看護職職員の実態と満足度について	2015	小児保健研究, 74巻3号, p. 393-404
6	金城やす子 他	保育園における障害児や医療的ケア児の受け入れと課題: 保育園看護職の配置との関連において	2015	保育と保健, 21巻1号, p. 37-40
7	松原由希 他	保育所感染症対策における看護職の専門性と看護職が認識する課題	2014	小児保健研究, 73巻6号, p. 826-835
8	空田朋子 他	保育所における医療的ケアが必要な子どもに対する支援の実態と保育所看護職の認識	2014	山口県立大学学術情報, 7号, p. 57-63
9	金城やす子 他	保育所看護師の支援体制の構築に向けて 一定期的な勉強会・研修会の実際とその意義―	2014	沖縄の小児保健, 41号, p. 5-70
10	阿久津智恵子 他	保育所看護職が認識している保育保健活動における困難感	2013	日本小児看護学会誌, 22巻1号, p. 56-63
11	矢野智恵 他	乳幼児の健康支援への保育所看護職者の「思い」に関する研究	2010	高知学園短期大学紀要, 40号, p. 33-43
12	稲毛映子	福島県内の保育施設における看護職の現状に関する調査 一期待される役割に関する一考察―	2007	福島県立医科大学看護学部紀要, 9号, p. 25-40
13	佐藤親可	保育所の保健活動における看護職の専門性の追求	2007	神奈川県立看護教育大学校看護教育研究集録, 32号, p. 231-238
14	荒木暁子 他	岩手県の保育園保健の実態と看護職の役割	2003	岩手県立大学看護学部紀要, 5巻, p. 47-55
15	湯目礼子	保育園における看護職の活動の実態と役割意識	1998	神奈川県立看護教育大学校看護教育研究集録, 23号, p. 448-455
16	阿久津智恵子 他	保育所(園)における食物アレルギーによるアナフィラキシーショックに対する救急処置体制構築に必要な要素	2015	桐生大学紀要, 26号, p. 1-8
17	鈴木陽子 他	病気、けがへの保育士の対応に対する調査	2015	保育と保健, 21巻1号, p. 50-52
18	橋本逸子 他	保育所における「気になる子ども」の研究: 保護者への対応について	2015	金沢大学つるま保健学会誌, 39巻1号, p. 101-108
19	中島正夫	発達障害の特性がある幼児の早期の気づきと親・家族を含めた支援体制のあり方に関する検討	2015	看護学研究, 7号, p. 1-10
20	小代仁美 他	保育所で発熱した乳幼児の保護者との対応の際の保育士の困難	2014	看護科学研究, 12巻2号, p. 53-57
21	菅井敏行 他	小児科医が保育所保育士に行った感染症に関する研修とその結果	2014	小児保健研究, 73巻1号, p. 96-103
22	山田恵子	愛知県現任保育士指導者養成研修「乳児救急」の講義と演習の評価	2014	中部大学生命健康科学研究所紀要, 10巻, p. 43-49
23	山川千賀子	保健職による保育中の子どものけがや急病時の対応研修の実践報告	2013	保育と保健, 19巻1号, p. 61-65
24	片岡亜沙美 他	保育士の保育所看護職への認識と期待する役割	2012	高知学園短期大学紀要, 42号, p. 55-66
25	矢野智恵 他	保育士の「健康および安全」への取り組み状況への認識に関する研究	2012	高知学園短期大学紀要, 42号, p. 43-54
26	山田恵子	乳幼児の小児一次救命処置に対する保育士の認識と現状	2012	日本小児看護学会誌, 21巻1号, p. 56-62
27	春高裕美	保育所における「けいれんのチェックリスト」実用化に向けての実態調査	2012	九州女子大学紀要, 48巻2号, p. 19-35
28	高橋清子 他	保育所保健に関する実態調査 一保育所における与薬の実際と保育所保健の認識―	2011	園田学園女子大学論文集, 45号, p. 75-84
29	吉兼伸子 他	特別支援教育時代における保育士の業務上の保育困難感について	2010	山口県立大学学術情報, 3号, p. 81-87
30	片山美香	保育士がもつ慢性疾患患児の保育への認識に関する研究	2010	保育学研究, 48巻2号, p. 39-50
31	木内妙子 他	保育士の子どもの健康についての認識と健康づくりのための実践に関する研究	2007	群馬パース大学紀要, 5号, p. 45-57
32	木内妙子 他	子どもの病気・けがへの保育士の対応に関する研究	2007	群馬パース大学紀要, 5号, p. 69-80
33	池田友美 他	保育所における気になる子どもの特徴と保育上の問題点に関する調査研究	2007	小児保健研究, 66巻6号, p. 815-820
34	斉藤貴志 他	小山市の保育園、幼稚園における与薬の実態調査	2007	小児保健研究, 66巻1号, p. 92-96
35	多田敦子 他	幼稚園・保育所における子どもたちの健康問題と障害を持つ子どもの受け入れの現状 一ある地域における幼稚園教諭・保育士に対するアンケート調査の結果から―	2006	自治医科大学看護学部紀要, 4巻, p. 55-62

保育所看護職の文献

保育士の文献

子への対応」・「被虐待児への対応」・「災害時緊急時に備えた対応」・その他（子ども取り巻く法制度）がそれぞれ1件であった。「障害児への対応と関係機関との連携」および「気になる子への対応」の文献では、看護師としての関わり方を模索し、疾患や関わり方に対する知識不足を感じていた。

学習方法は、「研修」が13件、「勉強会」もしくは「学習会」が5件、「専門書で調べる」「独自に学習（知識習得）」が5件、「情報交換・交流会・業務連絡会」が4件、「学会参加」が3件、「同僚に尋ねる・嘱託医に相談」が2件、「会議」が1件であった。「研修」は、保育所職員向けの園外での研修だけでなく、園内での研修や近隣園との合同研修もあった。気になる子への対応、被虐待児への対応、障害児への対応と関係機関との連携の項目では、独自に学習していた。

学習に関する課題では、研修開催の必要に関する内容が11件、看護師のネットワークづくりや組織化が11件、知識習得に関するものが8件、研修などの受講の保障に関する内容が5件、保育士への指導能力の向上が2件、看護基礎教育でのカリキュラムの確立が2件、小児看護の経験の必要性が1件であった。研修内容では、保育保健活動に必要な専門的な知識や技術の習得へのニーズが示されていた。

(ii) 保育士の学習項目・学習方法と課題

学習項目は、「子どもの健康管理」が4件、「けが・体調不良時の処置・対応」・「慢性疾患がある子どもへの対応」

が3件、「薬の管理や与薬前後の状態観察」・「障害児への対応と関係機関との連携」・「気になる子への対応」・「災害時緊急時に備えた対応」がそれぞれ2件、「感染症の早期発見・対応・関係機関との連携」・「保護者への保健指導」がそれぞれ1件であった。

学習方法は、「研修」もしくは「講習会」が11件、「（専門家から）指導を受ける」が1件、子どもの健康に関する相談先として「保健師への相談・親の相談機関・電話相談」が1件であった。

学習に関する課題では、研修の開催に関する内容が16件、学習の具体的な項目に関する内容が6件、与薬や気になる子、発達障害に対する知識不足に関する内容が5件、看護師による教育支援に関する内容が5件、内容のマンネリ化や行動変容に繋がらないなど研修受講後の課題に関する内容が3件、医療や健康教育についての情報を入手する環境整備に関する内容が2件、保育士養成機関におけるカリキュラムの充実に関する内容が2件であった。さらに、保育士による健康な子どもへのプリパレーションや、障害児に対して保育士が用いるスクリーニングツールの開発といった保育士の新しい学習項目に関する内容が2件記載されていた。

4. 質問紙調査

1) 目的

保育施設で働く看護職の保健活動や学習内容に関する実態を明らかにする。

2) 研究方法

対象者：保育施設に勤務する看護職700名程度。

質問内容：全国保育園保健師看護師連絡会で出されている「保育園保健業務の活動領域」⁵⁾を参考に質問紙を作成した。保健活動の実施状況については、34項目を設定し、「実施していない～十分実施している」までの4段階で、また、34項目において「実施のために必要なこと」を7選択肢の中から優先度の高い2つを選択するようにした。看護職の学習の機会（研修会等）に関しては、27項目を設定し、これまで受けた内容、今後受けたい内容と研修方法について回答を求めた。

調査方法：今回の調査では、全国保育園保健師看護師連絡会の協力を得て会報発行の際に封入して会員に送付した（2017年12月）。回収は、無記名個別郵送回収とした（2018年2月）。

3) 倫理的配慮

調査を行うに当たって、東京家政大学研究倫理委員会の審査を受け実施した。対象者には質問紙とともに依頼文を

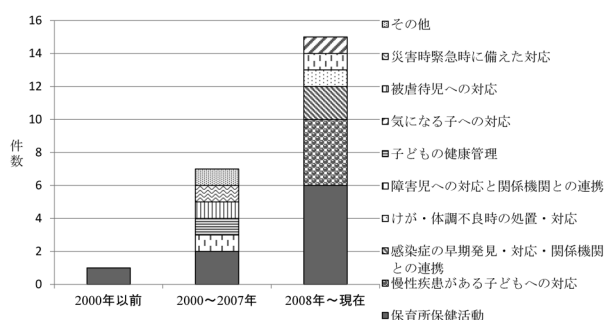


図1 保育所看護職の文献の掲載年代別学習項目

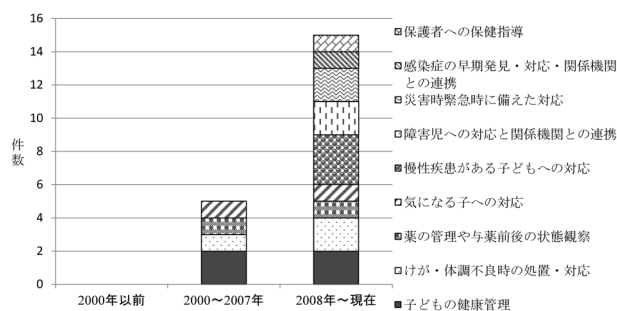


図2 保育士の文献の掲載年代別学習項目

添付し、調査の目的、個人情報の保護、データの取り扱い等について説明し、返送をもって同意とした。

4) 分析方法

量的内容については記述統計等を、自由記述については内容分類等を行う予定である。

5. ま と め

文献検討の結果、2008年以降保育施設における保健活動に関する研究文献が増加しており、保育保健への関心が高まっている状況が伺える。しかしながら、勤務している看護職・保育職ともに系統的な学びの機会はなく、課題も多く記載されていた。

今後は、現在実施している質問紙調査とあわせ、学習プログラムの枠組み等を検討していく予定である。

文 献

- 1) 日本学術会議子どもの成育環境分科会：提言 我が国の子どもの成育環境の改善に向けて—成育コミュニティの課題と提言，H29（2017）年5月23日。
- 2) 日本保育協会編：保育所の環境整備に関する調査研究報告書—保育所の人的環境としての看護師等の配置—，日本保育協会（2010）。
- 3) 山本弘江，西垣佳織，宮崎博子，他：保育所における保育所看護師等の保健活動に対する自身とその影響要因，小児保健研究，75(1) 63–68（2016）。
- 4) 前掲2)，p. 18。
- 5) 一般社団法人全国保育園保健師看護師連絡会，第26回全国保育園保健研究大会抄録・報告集，p. 7（2015）。